

■ 2－2 南山高等・中学校（男子部）

(1)学校としての戦略

南山学園の発祥の学校である南山高等・中学校男子部は、創立以来の学園のモットーである「人間の尊厳のために」を日々の教育活動の中で具現化できるように、「地の塩、世の光」の聖書のみ言葉を深く理解し、国際的視野を持ち、人類愛を実践できる人材の育成に努めます。

私立中高を取り巻く環境の変化や社会の変化の中で、現在得ている評価を損なうことなく、さらに異なる観点からの高評価の獲得を目指すべく、豊かな学びの追求と同時に大学進学実績に結びつく学力の追求を目指します。そのためにも「新学習指導要領」実施と「高大接続改革」という社会の変化に対応し、生徒たちの学習意欲、キャリア意識を高め、コミュニケーション能力を涵養し、総合的な学力を培っていきます。

(2)教育・研究

学習指導要領の改訂に伴い、2018 年度より教育課程委員会を中心に新カリキュラムの議論を重ねてきました。特に生徒たちが大学へ進学し、研究するために必要な基礎学力、または社会に出たときに求められるスキル等が獲得できるようカリキュラムの編成を進めるとともに、情報活用能力が言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられていることから、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点からカリキュラムの編成を行います。2021 年度から中学校は全面的に、2022 年度からは高等学校において年次進行で新カリキュラムを実施します。また、新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにはさらに教員研修等が必要と考えますので、この数年の間にさまざまな団体が開催している研修会やセミナー等に参加をし、研究することを教員に対して促します。

また、統合型校務支援システムを 2020 年度より導入することにより、成績管理等の業務の効率化を図り、教材研究等の生徒指導のために充てられる時間や生徒と接する時間を確保できるようになり、男子部教育の質の維持向上を図ります。

(3)施設・設備

教育・研究でも述べたように、新学習指導要領では情報活用能力の育成が重点のひとつとされています。男子部においては新校舎建築の計画段階より ICT 教育の必要性を議論しており、その結果、全特別教室にプロジェクター型電子黒板を設置、全教室に有線 LAN、将来的に無線 LAN が設置できるよう電源などは配線完了しています。電子黒板を用いた授業は普通の黒板ではできなかった生徒に動画を見せたりデジタル教科書を用いた授業ができたりと、教育に使用できるデジタルコンテンツが増えるにつれ生徒にとって非常にわかりやすく、教師側からも伝えやすい授業が可能となった結果、特別教室だけでは ICT を用いた授業がまかないきれなくなりました。そうしたことを受け、情報システム委員会を中心として議論をし、最初の段階として ICT を用いて、教員側から提示する授業をまず展開する計画を立て、現在のところ中学普通教室に各学年 3 台、高校普通教室に各学年 2 台を配備し、2021 年度までに全教室に配備する予定です。また、デジタルコンテンツを用いた授業には高速ネットワークが必要であることから 2021 年度に全教室に無線 LAN アクセスポイントを設置する予定です。さらに無線 LAN が普通教室で使用できるようになると、生徒用タブレット PC も PC 教室の PC と同様に SkyMenu（授業支援システム）が使えるようになり、各教科において情報活用能力を育成することができるさまざまな授業が展開できるようになります。なお、PC 教室においては中学技術、高校情報を中心として音楽

や英語などの教科でデスクトップ PC ならではの特性を生かした授業を行っており、PC 教室のリニューアルも必要と判断しており、2021～2022 年度においてリース替えおよびサーバーの更新を予定しています。

また、緑溢れるキャンパスを目指し、四季を通じて生徒や教職員、来校者の癒しの場となるよう正門付近を中心とした植栽を計画しています。緑化を推進するとともに、「八事の森のミッションスクール」として自然環境の教育にも力を注いでいきます。

(4)社会貢献

地域との関係に於いて、男子部・女子部・中京高校との3校でいりなか周辺の合同清掃を行っていますが、今後も継続していきます。また、朝夕アンジェラスの鐘を打鐘していますが、いりなか周辺のランドマーク的な存在としてさらに貢献していきます。社会貢献の究極のところは「人間の尊厳のために」生きる生徒を育てることであると考えています。

(5)財政計画

南山高等・中学校男子部は、現校舎が完成して以来受験生が増加してきましたが、単に校舎が良くなったからといって志願者が増えるものではありません。学校説明会・体験授業・塾訪問等の広報活動の充実により、受験者数を伸ばし続けてきたと考えています。今後も広報活動のさらなる充実を図り、男子部の人気を確実なものにしていきたいと思います。

また、財政状況の改善に向けて 2018 年度より学納金改定を行いました。2036 年度までは校舎建築の借入金返済が続くことに加え、今後施設・設備（ICT 等）のさらなる充実や、維持・管理（修繕）の費用が必要になります。補助金を確実に獲得していく以外にも、教育の質を低下させない範囲での支出削減努力と経費を補う対応策を考えて行きたいと思います。

(6)組織運営と人材育成

3 年後の南山国際高等・中学校からの教職員の移籍に伴い、専任教員の増加が期待されます。人的増加を基に、生徒・保護者との連携・対応をより一層迅速・スムーズに行うよう努力します。また、各種研究会への参加を促し、各教員の一層の研鑽に努めます。

また、学園内設置校との人事交流に努め、より良い実践を共有することで活性化に繋がっていきます。特に同じ教科の教師の協働を追求することで、「教科教育力」の向上を図っていきます。

さらに、6 ヶ年一貫教育を体系的に推し進めていくために、国際校からの移籍による専任教員数増加に伴う校務分掌の適正配置を検討し、学習面だけでなく生活面でも生徒を支援していきます。